

いのち・未来 うべ 通信 11号

わたしたちは原発のない安全な未来を
子どもたちに残すことを願って活動しています

〒755-0029 山口県宇部市新天町1丁目2-36「青空内」 | TEL080-6331-0960(安藤携帯) | <http://blog.ne.jp/nonukes2013>



上関原発を建てさせない 山口県民大集会開催!!

3月26日(土)山口市維新公園野外音楽堂にて2000人が集い成功を納めました。主催者挨拶に立った共同代表の1人清水敏保さん(上関原発を建てさせない祝島島民の会代表)は「県民大集会が開催され、地元として心強く有難く思います。現地では5年前の福島第一原発事故のあと、工事は中断したままですが国も県も中電ももちろん諦めてはいません。今年は35年目になります。上関原発をつぶすまで取り組んでいきます」と決意を述べられました。

～もくじ～

☆3.26集会開催

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| …1 | …6～7 |
| ☆長谷川健一さんの集会で
の発言 | ☆「語り部」福島」の皆さんを
迎えて |
| …2～3 | …8 |
| ☆金曜ウォーク参加の呼び
かけ | ☆私の過ごした5年間
語り部福島県郡山在住 |
| …3 ☆3.26集会
へのメッ セージ 旧豊 | 横田麻美 |
| 北町一漁民 …4 | …9 |
| ☆3.26集会参加者の感想 | ☆小出講演会大成功 |

…5～6

☆村岡知事に申し入れ



ゲストの長谷川健一さん(福島県酪農家)は手塩に掛けて育てた牛を殺処分、廃業、家族はバラバラになり、仮設住宅での生活が続いている、と現状を生々しく語られそれは福島県一帯の状況であるとも話されました。そして「上関原発は絶対に作らせてはいけない。皆の力で大



きな声を上げることが大切」とわたしたちを激励して下さいました。(発言内容別掲)

制服向上委員会の歌声は参加者を勇気づけ、会場のマルシェは楽しく賑やかに参加者を楽しませてくれました。

デモ行進では「子供が大事、魚が食べたい、野菜が食べたい安倍さん退陣」などシュプレヒコールをしながら上関原発反対の思いを訴えました。

また、この度、第3回目となる本集会に、38年前に豊北原発反対を闘い勝利した旧豊北町のI漁民の方から心のこもるメッセージが寄せられました。(別掲)メッセージは豊北と上関を結び連帯の絆を強め上関原発反対の闘いを全県に広げていく新たな第一歩となりました。

長谷川健一さんの集会での発言

私は飯舘村で酪農家をやっていた。8人家族、4世代で同居の生活をしていたが今は妻と私の両親とで伊達市内の仮設住宅に暮らしている。息子たちは福島市内。二番目の息子は伊達市内のアパート住まいと、3カ所に分断避難している。故郷を顧みればとんでもない光景が今広がっているのが見える。我々の苦しみはどこにぶついたらいいのかまったく分からない状況だ。あの当時を振り返れば50頭の牛を涙ながらに殺処分。さらに酪農家の友人の自殺。となり村では百二歳のおじいちゃんが「おまえら避難しなだべ、俺がいれば足手まといになる」と言って自殺した。百二歳ですよ。考えられますか。そういうことがことごとくおきていた。

そして、計画的避難が始まったが村の対応は非常に遅れた。何故かという村当局は「放射能なんて大丈夫だ。こんな美しい村、皆で創り上げてきた故里をゴーストタウンにしてなるものか」と考えていた。しかし、国の指示で避難しなければならなくなった。飯舘村の人たちは避難が一番最後になり、避難する場所がない。それでも皆、おんぼろアパートでもいい、少しよくなれば少しましなアパートにでも移り住むという、そんなくり返しをしてきた。

除染が始まる。国は「原発事故は絶対起きない」と安全神話をふりまいてきた。30年前のチェルノブイリ事故さえ対岸の火事だった。だから除染とかの研究も何もやってこなかった。ところが事故は起きてしまった。何をやればいいのか分からずまま。その後には再稼働が進んでいる。だからどんな形でも除染をやらなければならない。その結果何をやったか。ペーパータオルを持って屋根に上がり瓦を一枚一枚拭き取りをする。ビニールハウスも同じようにペーパータオルで拭く。こんなんで放射能とれるの？疑問はどんどん深まる。さらに道路ののり面を箒で掃いている。掃きおろしてそれを黒いフレコンバッグに入れている。除染したとされるところをガイガーカウンターで測ると針がグリーンと

跳ね上がる。何故上がるのか、私も環境省に伺った。環境省は「今、国ではどこまで下げなさいよという基準はないんです。だから面積除染です」という。来年2017年3月末までには避難解除すると我々は通告されている。故里の家の後に山がある。山は20メートルの範囲で除染をやった。それは木の葉などの堆積物を除



き、確かにきれいになっている。私は大学の研究機関にお願いして土壌のサンプリングをやってもらったところ何と2万6000Bq/Kgという数字が出た。国が示している廃棄物の濃度の基準は8000Bq/Kgを上回るものは国が厳重に管理保管するとしている。この国の基準からみて、飯舘は除染を終えたところが国の基準の3倍に及んだ。農地、田んぼ、畑を見れば黒いフレコンバッグの山。ものすごい数、現在は150万個だそう。これが飯舘村全面的に置かれている。フレコンバックがいつ撤去されるのかまったく分からない。いま、中間貯蔵地も、しきりに説得しているようだが皆同意しない。これからまだまだ除染が進む。私はこれから十年位は撤去までかかるだろうと思う。こういった所に国は帰りなさい、しかも戻る戻らぬの判断は自己責任で決めよという。冗談じゃない。

いま、福島の人口は190万人。その中ですでに166人の甲状腺がんの子どもたちが出ている。事故前の統計では100万人に1～2人の確率だった。明らかに異常である。それを国も県立医大も認めようとはしない。因果関係はないというのだ。国策で進めてきた原発。何で国がきちんとした責任とれないのか。安心して戻れるような対応をして下さいとお願いしている所である。飯舘村の村人は非常におとなしい。

その中で私は原発事故紛争解決センターに申し立てをした。現在、村民3019人(飯館人口の半数)をひきつれて進めている。飯館村民も怒っているという意思表示をすることが非常に大事と思う。

しかし、我々もこれからどうなるのか…という思いだ。飯館!!皆で作ったこの故里、きれいな村!若い人の、子供たちのいない村になる。だが、子どもたちに戻って来なさいとは言えない。仮に戻ったとしても60歳以上の人たちが村づくりをしなければならない。後を振り向けば後継者とか、後をついてくる人は誰もいない。我々が動けなくなったら村は終わりになる。



放射能に汚染された土や枯葉や草木を袋詰めにした150万袋とも言われる野積みされたフレコンバッグ

放射能の恐ろしさ、放射能はすべてのものをバラバラに破壊していくという特性がある。家族もバラバラ、地区も村も皆バラバラにされていく。これに対して国も県も責任をとらない。

結局我々が邪魔なわけです。国はオリンピックに向けてどんどん走っている。その上で福島第一原発事故そのものが邪魔だから早く幕引きをしたい。こういうことを国は懸命にやろうとしている。原子力規制委員会が「大丈夫です。合格しました」と言って再稼働する。ところが田中委員長は「合格したが安全とは言えない」と言う。

避難訓練とは言いが机上でおこなわれている。

申し訳程度実施された所もあるがその後の論議はまったくなされていない。避難後は具体的にどうなるのか、健康のことや福島の場合で明らかに高濃度に汚染された地にいつ帰れるのか分からない状況などまったく論議もされて



いない。若い人は戻らず年寄りだけが残る。これらの問題についての対応もない。

山口は汚染されていない。上関に絶対に作らせてはいけない。作れば必ず我々のような原発棄民が出来る。それだけはやめて欲しい。皆の力で絶対に上関は作らせないという大きな声を上げることが非常に大切なことと私は考えている。のどかな暮らしを根底から覆された福島県飯館の村民の思いを山口の人たちに体験して欲しくない。そういう強い思いで今日ここに立ちお話をさせていただきました。



4月8日(金)192回目の金曜ウォーク

金曜ウォークへ参加の呼びかけ。

毎週金曜日、各自手作りのプラカードを持って、宇部市役所正面玄関を、18時に出発して宇部新川当たりで折り返す、静かな原発反対行動をしています。4月15日で193回目となります。みなさんの参加をお願いします。

3. 26集会へのメッセージ

旧豊北町一漁民

高浜原発の再稼働停止判決！あれが本当だと思います。

豊北町に原発建設計画が持ち込まれた頃、私の原発についてのイメージは広島、長崎の話を聞いていたくらいでした。しかし、生活のみなもとである美しい海を奪われてはならないとの強い思いが支えとなり、頑張りました。



当時、豊北では海と山に二分され、私は漁師になりたての頃でしたがおやじたちが反対していたので反対しました。豊北では、今の上関のように手が余り入っていませんでした。調査も進んでなくて反対のしやすさがありました。

反対運動は皆で手分けして進めました。説明の仕方とかを勉強し山側に一軒一軒戸別訪問してお願いに行きました。「原発が建ったら駄目になる、是非とも反対して欲しいと」一か月も二か月も毎日毎日根気よく説明して歩きました。

漁止めもしばしば、生活も仕事も全部含めてやって来ました。町舎に座り込みもしました。町長をリコールし、原発反対の候補を立て、いざ選挙の時は車を出して有権者を運んだり、身体の不自由な人はおぶって投票所に行き、投票してもらいました。投票率は90%を超え勝利しました。

反対は粘るしかありません。いつかは実を結ぶと思います。反対も「こういった部分で反対してもらいたい」というお願いだったと思います。上関も賛成の人のエリアに「反対して下さい。お願いします。補助金をもらっているいろいろ

やるより、住民が何とかする、補助金をもらわなくともやっていけるという内容のことを言葉に出来たら、反対が増えるのではないか、あくまでも辛抱と粘り強さが要ります。

上関の30年余りの斗いはきびしいと思います。30歳の人は60歳になり70歳の人は100歳になってしまいます。反対運動を親が子供に伝えることで次の世代につながっていきます。

私らは喉もと過ぎれば…というのではなく、地元はこれだけ苦勞しながら孫末代まで影響のないようにという思いでやりました。

私らがこうした経験をしたからではなく“福島を見なさいな”今、現実に日本全国で原発反対の気運は高まっています。

反対を訴える時は「万が一事故が起きた場合はそこでは生活が出来なくなるよ！そうなのもあんたたちはいいですか」「上関に何か起こったら内海は駄目になりますよ」「福島と同じになるよ」と訴えていけば徐々に反対が増えてくるのではないかと思います。福島では今後何らかの形で被曝の影響が出てくるのではないかと？こういったことを日本全国の皆がかみしめないといけないと思います。

玄海原発も、もし福島のようになったら大変なことになります。人間として選択しないといけないと思います。今の状況…原発を作らしちゃあいけないと思います。

今ふり返ってみれば原発反対を選択して良かった。福島をみたらよく分かる。あの時反対したからやっぱりよかったのうという気持ちです。

今はすみよい生活になっていると思います。

ここを将来的に死に場所として考えてみれば福島をみても分かるのではないかと思います。

祝島のみなさんの34年にわたるたたかいに心から尊敬します。協力できることを考えたいと思います。頑張ってください。



3. 26 集会参加者の感想

長谷川健一さんの悲痛な叫びに衝撃

『今私達は大変な目に合っています。どうか私達を忘れないで下さい。』この悲痛な叫びをあげているのは私達と同じ日本人であり、福島の人たちです。

私は3月26日上関原発を建てさせない山口県民大集会に始めて参加して、福島県飯舘村の酪農家長谷川健一さんのお話を聞いて大変ショックを受けました。中でも原発はすべてのものを破壊し分断すると言う所です。私は約20年前、実際に原発予定地の祝島に行ってきました。島に上陸して、まず気が付いたのは各家々の玄関先に原発賛成とか反対とか書いてあります。島の友人に聞いた所、昔は島民は皆仲良く暮らしていたのに、今では隣近所の人や親兄弟でさえいがみ合って暮らしている。このように原発は物だけでなく、人の心まで破壊してしまうのです。

私は現在建っている中国電力柳井火力発電所の建設をした張本人です。この発電所は液化天然ガス(LNG)で発電します。勿論原発とはちがいます。しかし両方共人間が作った機械に違いありません。100%事故や故障がないとは言いません。実際私がこの発電所を建設中にも色々な所に欠陥があり、それを補修してきました。例えば約30mm近いタンクの側板と側板を溶接します。日本では最先端の技術と材料をもってしても完璧なものは出来ません。この様に原発と天然液化ガス発電との違いはありますが神様が造った物でない限り完璧な発電所はないと言うことです。いかに政府が安全だ完璧だと言ってもそれはほとんど信用できません。福島がいい例ではないですか。私には7人の孫がいます。今から20年30年後にもし原発事故が起きたとしましょう。孫達はかならずこう言うでしょう。『あの時おじいちゃん達が命をかけて原発反対運動をしなかったから原発が残り事故が起きた』と。子や孫の時代まで負の遺産である原発を残してはいけません。取り返しの付かないことになります。

柳井 武

今後の生き方を考えさせられた

この度、いのち・未来うべのメンバーから声を掛けられ、集会成功の為のカンパと署名の募集を妻と行い、妻は体調が優れず私一人で初めて集会に参加しました。

反原発に関しては、署名や選挙の投票でのみ、意思表示して参りました。集会に参加するということで少し気持ちが高揚しました。集会当日は、好天にめぐまれ、チャーター便のバスに乗り込みました。会場に着く迄、参加者の自己紹介があり、いろんな方々が参加しておられるなと思いました。年配の方が多かったかな？自分も含めて。会場の維新百年記念公園に着くと、雑貨フリマ、マルシェが催され、活気が溢れていました。野外音楽堂で催された「BYE、BYE NUKES 2016」県民集会では、オープニングで、制服向上委員会により戦争やめよう、原発やめようと、みんなの声を歌にして、すばらしい演奏を披露してくれました。メンバー3名は、中学生であり日本の未来も明るいなと思いました。主催者挨拶は勿論ですが、メイントーク長谷川健一さんからの飯舘村のいまのお話には、厳しい原発と政治への怒りがこみあげてきました。

今年3回目となる集会の参加者は2000名で年々人数が減ってきていると聞いた。福島原発事故の風化が始まっているのか。「豊北原発阻止で斗った豊北漁民」から反原発運動を進めていく上での有難いメッセージと思いつつ、私自身は今後何をどのように行動すれば良いのかと、考えさせられています。 八田 優

この集会に「希望」を見いだして

原発のない社会にむけて私にできることは…。BYE BYE NUKES 県民大集会に参加する時は必ず「HOPE」のピアスをつけることにしている。この県民大集会で「希望」を見い出して、また一年、原発のない社会を目指し、私なりに生きていくための印である。

今年の集会は、若い人の原発・戦争反対の表現がとても新鮮で気持ちが晴れ晴れとした。

正直なところ、初めはアイドルグループに少し抵抗感があったが若い人の発進力を心強く思っ

た。私はいつももう亡くなってしまった忌野清志郎さんが生きていてこの集会に来てくれたらこの世界に原発や戦争はいらないことを彼独特の歌とパフォーマンスで伝えてくれるだろうと思っていた。



拳を握ってばかりでは疲れてしまう。眉間のしわを解いて様々な人が様々な方法で原発・戦争に反対の意志を表していくところに「希望」があると思う。

長谷川健一さんのお話を聴いて諦めない人の強さを感じた。そして、降壇される後ろ姿は長谷川さんのお話以上に雄弁に生き方を語っていた。

そして、私に出来る事は何だろうと自分に問いかけた。自分の周りの人に少しずつ原発に未来はないと伝えていこう。必ず原発や戦争のない社会はつくれるという「希望」も忘れずに伝えよう。「るい」

福島は惨状は他人事ではない

上関原発を建てさせない山口県民大集会に今年で三回目の参加をさせていただきました。丁度今年は所用がありましたが断り、止むに止まれぬ気持ちでこの集会に参加しました。

先日の福島での3.11の報道に涙し、あれほどの悲惨な事故に対して何故国は懲りもせず原発の再稼働を続けるのでしょうか？

今度の集会でのコーラスの歌詞にもあったように、この地球は人類が住まわせてもらっている宇宙からの借り物で、決して自分達の所有物ではないと思います。やがて未来を引き継いでくれる子供、孫等に大切に引き渡してやらない

といけない筈です。二年前に姫島から遠く眺めた祝島がなんと美しい海に浮かんでいたことか！

この美しい景色を絶対に壊してはならないと心から思いました。上関も三十年余りの反対運動にもかかわらず未だ解決していません。今こそ一人でも多くの人々に呼びかけ、この集会宣言に訴えられていた原発の白紙撤回を勝ち取らないと取り返しのつかない事態になってしまいます。やらないといけない筈です。

飯舘村から駆けつけて下さった長谷川さんの今でも続く村民の苦しみの訴えを他人事でなく我が身に受け止めて、来年はもっと多くの人々に呼びかけていかなければと強く感じさせられて会場をあとにしました。

和田幸子

村岡県知事に申し入れ！

2月16日、上関原発計画の根っこを見る会（上里恵子）他賛同7団体が村岡県知事に対し「原子力発電関係団体協議会」からの脱退を求め、上関の「重要電源開発地点の指定」の解除を求めることを要望する申し入れを2075筆の署名を添えておこないました。

県は中電の原発建設を一貫してあと押し！

「原子力発電関係団体協議会」は原発が立地しているか、立地予定の県の知事で構成されており、村岡県知事は原発立地の県として名前を連ねています。

山口県が1978年5月から県知事名を連ねていることに対して県側は「中電が立地を望んでいる」「県が主体的にやっているのではなく、あくまでも中電がすすめている」「国のエネルギー政策で上関町が選択した。県としては地元の選択を尊重し、国の政策に協力するのは当たり前のことと思っている」（商工労働部 末永氏）等々、国や地元へ責任転嫁して逃げをはかる不誠実な態度に終始しました。そして、上関の地質、地盤等の安全審査についても「国がやっていることだから」と人ごとのような無責任な答弁。また、静岡県知事が3.11福島第一原発の事故以降、「交付金をもらうための団体である」として協議会を脱退したことに関してなんら関心も示しませんでした。市民の側からは「県は

これまで“中立の立場である”と言い続けてきたのはウソだったのか」「県の独自の判断はないのか」「福島原発事故は福島だけの問題ではなく東日本全体を汚染した。瀬戸内海には伊方原発もある。こういう状況を承知してすすめているのか」など県が中電の原発建設を一貫してあと押ししていることにたいする怒りの声がありました。

埋め立て免許の取り消しを求めた訴訟で、裁判所の現地視察が決定しました！

祝島の漁業者が原告となって山口県を訴えた「埋め立て免許取り消し訴訟」と上関の自然を守る会が中心となって提訴した「自然の権利訴訟」の2件の起訴において裁判所が現地視察を行うことが決定しました。

双方の訴訟の原告団・弁護団では判決の前に裁判官や被告である山口県が現地である上関町、祝島、そして原発建設予定地に直接足を運び現地の状況を実際に知ってもらうよう昨年3月に申し立てました。

当初裁判所の反応は薄かったものの、全国からの賛同署名6万筆以上を提出し、約1年にわたって粘り強く主張し続けた結果、現地での進行協議という形での現地視察が決定しました。

提訴からすでに7年が過ぎていますが、ようやく一歩前進したと言えます。上関原発計画のための埋め立て免許の取り消し・失効を求めるこの訴訟の中で、今回の現地視察は大きな山場となります。

2016年3月7日 祝島島民の会 埋め立て免許取り消し訴訟 原告団・弁護団

(報告を抜粋)

上関住民訴訟第13・14回口頭弁論

上関原発建設にからむ公有水面埋立免許延長問題の住民訴訟第13回口頭弁論が、2月3日山口地裁で開かれました。

被告の県側から出された**黒塗りの文書**に対して、原告弁護団は**文書提出命令**の申し立てをしました。

これに対して被告の県側は ① 条例によって情報開示手続き上、裁判上の**文書提出命令**によって文書を提出義務は無い。

② 本件訴訟の争点は**法的解釈の問題**であり、その判断をする上で、非開示部分を明らかにする必要性はない、というものです。

これに対して原告弁護団は

① 文献上、公法上、この文書は提出命令の文書対象に含まれ、被告には開示する義務がある。

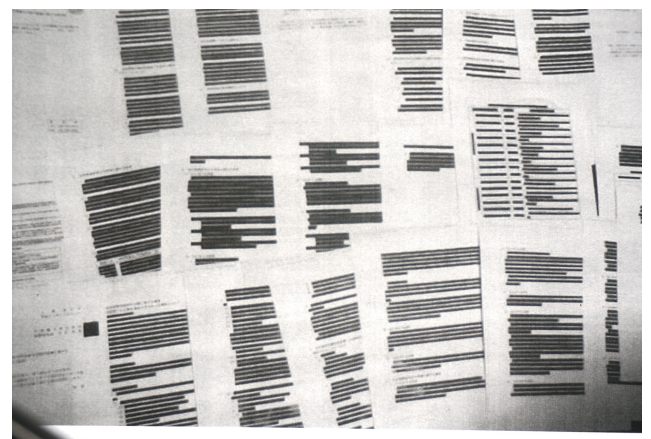
② 本件争点は、両知事による判断留保の裁量逸脱・濫用であり非開示部分が明らかにされなければ裁判所も判断できない。被告が開示しないので、**文書提出命令**によって開示させる必要がある。

この件については裁判長も同感の意を表しています。

第14回口頭弁論では、被告県側から、黒塗り文書の**所持者が知事ではなく山口県であるため山口県の意見を聞く必要がある、との意見**が出されました。

第15回口頭弁論は、6月1日16時からです。

被告県側は、上記について釈明するものと思われる。



県が出してきた黒塗り文書の一部

保守王国 山口県の「知らせるな、従わせろ」という住民を押さえ込む暗黒体質そのものです。安倍政権のお膝元の山口県は原発推進・住民の声つぶしの国策モデルになっています。

福島との新しいつながり 「語り部ふくしま」の みなさんを迎えて

おいでませ山口♪定住支援ネットワーク
事務局 安藤公門

2月11日から13日にかけて、福島県から「語り部ふくしま」のみなさんを迎えて、福島の声が届ける交流会を行いました。「語り部ふくしま」のみなさんに語っていただき質問や意見を交換する交流の場でした。福島の3人のみなさんにとっては、福島県外では初めての試みでした。

主催は、おいでませ山口♪定住支援ネットワーク、共催として、NPO法人みみをすますプロジェクト（札幌市）、また、かふえぶらす郡山 hand to hand project kawamata EarthAngels（アース・エンジェルス）のみなさんのご協力をいただきました。

このプロプロジェクトは、CWS JAPAN 助成事業として行われました。

参加されたのは、語り部チーム：横田麻美さん（郡山市）、安斎牧子さん（二本松市）、高橋千賀子さん（川俣町）、コーディネーターとして、みかみめぐるさん（NPO法人みみをすますプロジェクト）、記録研究で同行したのは、アレックスさん（アメリカ・ミシガン大院生、上智大研究員）のみなさんでした。

この中から、横田麻美さんから寄せられた感想を掲載させていただきます。

また、以下は、実施した場所などを要約したものです。130人近くの方が、新たに福島とのつながりをつくりました。この場をお借りして、ご協力をいただいたみなさんに感謝致します。

このプロジェクトが子どもたちを迎え入れる保養や安心安全な野菜・お米を送ることにつながり、より大きくなることを願っています。

◎ 2月11日夕方 宇部ふれあいセンター

- 参加者 56人「福島子どもたちとつながる宇部の会」「福島～山口いのちの会」小野のみなさんも参加

- 出された主な質問、意見「保養とは何か

を説明して欲しい」「放射能汚染のまま放置されているのが信じられないという意見がありました

◎ 2月12日 宇部市小野「アクトビレッジおの」

- 参加者 32人 小野地域の人。山口市、益田市からも
- 出された主な質問、意見 山村留学や保養に関心。「山口や小野で何ができるか？」という質問がありました。

◎ 2月12日夜上関町祝島岩田珈琲店をメインに。一泊。

- 参加者 10人移住された人、地元の人。翌日は散策と交流
- 出された主な質問、意見 祝島と北海道のつながりが意外と多いことが分かりました。

◎ 2月13日昼 平生町 こびとのおうちえん(大下あつおさん主宰)

- 参加者27人 子連れの若いお母さんを中心に大下さんの予測を越えて会場いっぱいになりました。
- 出された主な質問、意見「福島のことを意識しているつもりだったが忘れていた自分に気づいた」という感想がありました。

◎ 2月13日夜 周南市三丘(みつお)徳修館(公民館)

- 参加者12人 昨年夏保養を実施した地元のみなさん。島根県からの参加者、福島県川俣町の出身者が新聞を見て参加。
- 出された主な質問、意見「昨年の保養は意味がわからないこともあったが、話を聞いてお母さん方の変えさがわかった」という



意見がありました。

私の過ごした5年間

語り部福島県郡山在住 横田 麻美

私には1人息子がいます。今息子は高校2年生、札幌の高校に行っています。総合学習で「電気について」調べ、原発の安全神話を否定していた息子。原発事故があった時息子は中学1年生でした。

東日本大震災を受け仕事先の片付けを終え帰宅中、原発事故のことをラジオで知り、避難準備しておくように話しました。私は無知の智恵で原発のある反対側へ向かおうと思いながら家路を急ぎました。一緒に住んでいる弟家族にも避難を誘いました。しかし、弟は「大丈夫だ！ここは避難指示出ていないんだから」と話を聞いてくれません。私は弟よりも姪(当時3歳)が心配だったので説得し続けて一緒に一時避難し過ごしました。

新学期が始まる前日に郡山に戻ってしまいます。(今思うとバカだったと思います)その後の学校生活は杜撰なことだらけでした。屋外活動規制を言われても平気で屋外で活動するし、風評被害払拭の為、福島県産のお米や野菜を給食で使う事等、子ども達が巻き込まれていく様子に驚き、怖さを感じました。自分の事は自分で守らないと誰も守ってはくれないんだ、と思い知らされました。

そんな中、福島県ではないところに避難、疎開したいと考えアチコチ検索し始めたのですが、子どもだけを受け入れるところはその時点ではなかったので、せめて夏休みだけでも保養させる事を調べました。そして色々な縁で出会ったのが北海道での夏休み保養プログラムです。

一カ月の保養で息子が感じた事は本当に当たり前の事…。外を駆け回り、野っ原に寝転ぶ。そんな当然の事が福島じゃ出来なくなった。帰省した息子が言った言葉「現実逃避終了！」この言葉を聞いて親としての自己嫌悪に陥りました。「あゝ…私はたった一人の息子を安全な場所から危険な福島県に戻させてしまった。」ずっとずっとずーっと罪の意識は消えませんでした。被曝回避を思い毎回長期保養には参加させまし

た。そうしながらも息子だけでも避難移住をさせようと考え実現のために動き始めました。保養で訪れている札幌は寄宿舎のある高校もあると知り、息子の単独避難先は札幌に決めました。沢山の方々の支援に助けて貰いながら中学校卒業を機に片道切符で息子は避難しました。(それから1度も息子は福島には帰ってきてません)「なんで離れて暮らさなきゃならないんだろう？」と思ったりもしましたが、後手後手に出てくるあの頃の情報を今になって知らされると、自分たちの選択は間違っていなかったと強く感じます。5年…区切りとか節目とか、ここ福島県には区切りも節目もありません。原発事故による放射能被曝に対する不安はずっとずっと続きます。

今、私は郡山に住んでいますが定住は本意ではありません。自分のタイミングで他の地に移住も考えています。それがいつになるかは分かりませんが…。避難や移住を考えている人はまだいると感じています。その人その人のタイミングもあります。そのタイミングの時に受け入れてくれる地は必要で、それはずっと継続していないと周知されません。私達親子が息子だけの移住を考えられたのは、それまで何度もそこ(札幌)に保養で訪れていたという馴染みから決められたと思っています。そして移住したくてもできない人の方が多い事を考えると、せめて保養に出したい！と言う人達の保養受け入れの継続は必要で、大切な事になると思います。

大勢受け入れでなくていいと思うし、数日の受け入れでもいいと思います。思った時に行ける、向かえる場所があると言う安心感が大事なことだと思います。どうか、これからも山口県での受け入れの継続をお願いしたいと思います。

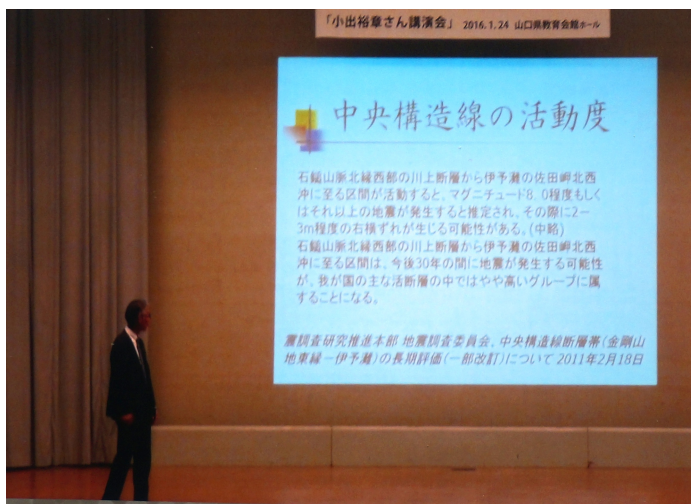
最後に原発事故による放射能被害や被曝に対し真面目に考えたり、本気で悩んでいる人が福島県内では「厄介者」「変人」「非国民」と思われている現状と、報道されないコゝ福島県に暮らす私たちの真実の声を山口県で活動なさっている皆さまや興味を持っている方々に届ける、伝える機会を与えて頂いたことに感謝致します。ありがとうございました。

豪雪の中、250人の市民が参加 講演会は大成功！

1月24日、山口市・教育会館において小出裕章さんの講演会が開催された。数十年ぶりの豪雪となった悪天候の中、講演参加者は当然かなり減るだろうと予想された。しかし、実際に幕が開くと250名もの人々が詰めかけ熱気あふれる講演会となった。

小出さんが山口県を訪れたのは東日本大震災直後の柳井、下関、宇部での講演会で五年ぶりのことである。

小出さんは冒頭、米国による広島への原爆投下にふれた。核爆弾のすさまじい破壊力によって一瞬にして広島市は壊滅し、十数万の人々が殺された。生き残った数多くの人々も被曝者として苦難を強いられた。全国各地で空襲が続く中で広島市は原爆投下まで無傷で残されていた。それは、すでに原爆投下の標的になっていた広島市が原爆投下によってどのように破壊されたかを確認するためのものだった。米国の残忍さを物語るものだった。



これだけの被害を被った人々は核兵器を二度と使用することのない平和な世界を求めてたしかだった。戦後が経過する中で「あれほど巨大なエネルギーを生み出す原子力」を平和目的で利用できないかという世論がふりまかれた。石炭、石油から原子力へとバラ色の世の中が到来するかなのような幻想がふりまかれた。政府、自民党が旗を振り、原子力開発と称して国家予算を湯

水のように注ぎ込み、電力業界を中心に全産業的に幾多の基幹産業をまきこみ、その周囲に官僚、中央・地方の議員、御用学者、マスコミを配置して原子力開発推進の国家体制を創り上げてきた。これを「原子力村」(小出さんはこの集団は犯罪者集団だから“原子力マフィア”と怒りと軽蔑を込めて呼んでいる)という。小出さんは初めは“原子力の平和利用”に幻想を持って学問の道に入ったと述べていますが、その欺瞞性を見破り、長きにわたって政府の原子力開発政策に反対を貫いてこられた。そして、今日では原子力開発と核開発とは同義語であって“平和利用”を掲げながら核兵器の製造能力を確保するための布石でもある。と主張するに至っている。

小出さんは次に福島県の実態について報告した。放射能汚染は深刻で福島県を中心にその隣接地域の1000平方キロに及ぶ広大な大地が汚染している。原子炉施設の一角に放射線管理区域と言われる施設がある。放射能を取り扱う特殊な施設でそこでは水も食事も取ることができないし、寝ることトイレに行くことも許されない。つまり、普通に生活ができない場所である。この施設から出ようとすれば汚染された部分を洗浄して1平方メートル当たりのセシウムが4万ベクレル以下にならないと出してもらえない。これが日本政府が自ら定めた法律に基づく放射線管理区域である。ところが、福島では広大な地域がこの放射線管理区域と呼ばれる区域と何ら変わらないかそれ以上に汚れているのである。

政府はこの汚染地域へ福島の人々を棄ててしまった。小出さんは怒りを込めて政府の暴挙を非難した。今回の福島原発事故から導き出される教訓は「即刻廃炉」である。ところが、“原子力マフィア”たちの教訓は「どんな悲惨な事故を出しても誰一人罰せられることなく責任を取らなくて良い」と言うものだった。そこから彼らは「原発再稼働」へとつき進んでいる。今回の事故をより深刻にした巨大地震についても触れ、日本列島が「地震の巣」の真上にある非常に危険な地域であることを強調した。すでに近い将来想定されている東海地震、東南海地震、

南海地震、さらに日本最大の活断層・中央構造線(茨城県、長野県、東海地域、紀伊半島、四国北部、伊予灘を越えて大分県、熊本県から鹿児島県川内市沖に至る)の危険性についてもふれ、日本の国土には安全な場はないことを強調した。終わりに小出さんは安倍内閣の戦争準備政策の危険性を強調し、もはや我々はいわゆる戦後世代ではなく、これから先の「次の戦争」から見れば新たな戦前世代と言える。

過去の歴史の教訓から次の世代に戦争を引き渡さないため、福島の子どもたちには被曝を少なくするため力の及ぶ限り頑張りたいと結んだ。



公演後自ら出版された書籍を購入した人々へのサイン会に 応じる小出さん

政府は熊本地震の現況を謙虚に受け入れ、原発政策を根本的に見直すべきである。

4月14日から始まった熊本地震は4月16日の本震を経て今日に至るもなお収束の気配もない。マグニチュード7.3の巨大地震をピークに震度7、震度6強、震度6弱クラスの激震が連発。多数の死者、負傷者、行方不明者、住宅倒壊、道路網、交通網の寸断、断水、停電、等々被害は甚大である。政府は住民の安全、安心が第一で出来ることは何でもやるとかけ声だけしかけるが実際の支援体制は遅れに遅れている。

看過できないことは政府が報道統制をしていることである。当初、熊本市周囲に地震の活動域は限られていた。現況の活動領域は大分から熊本まで斜めに横断。さらには大分から伊予灘・四国北部へ、熊本・八代市から海底を通過して川内市沖へ、つまりは日本最大の活断層・中

央構造線の西端部分全域へと活動領域が広がる様相を示しつつある。大分の先には伊方原発、八代市の先には川内原発がある。今回の熊本地震の実態から活断層の危険性が人々のなかに認識され原発を廃炉にせよとの要求が高まることは必至である。政府の報道統制の狙いは熊本地震の生々しい体験と原発反対の要求とが結びつくことを姑息にも妨害することなのである。今こそ、声を大にして人々の安全を無視して、原発推進をゴリ押しする政府の企みを暴き出さなければならない。

川内原発の稼働

ただちに停止を求めます。

九州電力株式会社社長 瓜生道明 様

2016年4月18日

いのち・未来 うべ 代表 安藤 公門
山口県宇部市新天町1丁目 「青空」内

熊本地震は益城町を中心にM7.3と大規模な地震がつづき余震も500回を越えています。

熊本県を中心にした死者42人、負傷者1110人、避難者20万人(4月18日現在)と各地で甚大な被害をもたらし、震源地域も大分県から日向灘、伊予灘へ広がっています。

気象庁は、「南西側にも地震活動が広がっている」とし、「周辺にある活断層の地震が誘発されると大規模な地震の可能性を発表し、注意を呼びかけています。

今回の地震による甚大な被害の上に、川内原発事故が起きれば想像を絶する人災を引き起こします。

福島原発事故の教訓は、「ただちに原発稼働を停止する」ことです。国民の願いを聞き入れず、川内原発の稼働をしつづける九州電力の措置は、まさに生命と生活を破壊する悪行と言わざるをえません。

私たちは、心から怒りをこめて叫びます。

「ただちに川内原発の稼働停止を強く求め

豊北をたずねて No2

角島大橋を渡る時の海の色、汐風、自然の美しさが身にしみこむ感じがします。

私は幾度となく渡りましたがその都度「大切な自然を原発で汚されなくてよかった」との思いが募ります。38年前に全生活をかけて粘り強く斗かわれた原発建設反対の闘いがあったことを忘れることは出来ません。

この度、一緒に角島を訪問したAさんは初めて見る角島の自然、サザエやウニ、イカなど豊かな海の幸と海に支えられた人々の生活にふれ、「きれいな海と海の幸を原発反対で守ったんだということをもっと宣伝しないとイケんね」と話していました。

角島の漁師さんは「当時は若かった。漁協幹部から言われ一生けんめい働いた。当時の幹部はよい選択をしてくれた。本当によかった。3.11福島原発事故を見てつくづく思う。」 矢玉漁港ではサザエ漁の網の手入れをしている漁師さんと話すことができました。漁師さんは「海さえあれば生きられる。原発を建てさせなくてよかった。」としみじみ語り、「祝島の皆さんを尊敬します。頑張ってください」というメッセージをいただきました。

私たちは豊北各地に足を運んで地元の人たちにふれることで人々の暮らしや原発にたいする考え方をだんだん知ることが出来ました。



この度の訪問は豊北原発建設反対を斗かわれた地元の人たちの行動と今日の思いをしっかりと受けとめ、34年間粘り強く斗っている祝島の人々の思いを伝え、豊北地域の皆さんに協力と援助をいただきたいと願ってのことでした。

私は全県民の力をひとつに束ねていくことによって上関原発建設白紙撤回の闘いの展望をきり拓くことが出来ると確信します。

(H)

上関お魚パックをどうぞ

山口県上関町にある長島周辺の海は、国の天然記念物・カンムリウミスズメやスナメリをはじめとする、世界的にも希少な生き物たちの宝庫。そんな奇跡の海が今、原発建設予定地になっています。安全・安心な海のいのちをいつまでも守りたい。そんな思いから始めた上関お魚パックは地元の漁師さんが、その日に水揚げした新鮮な海の幸を詰め合わせた産地直送のお届けサービスです。

お魚パックの届くまで

- ① コース(3000円か5000円)を選び
- ② 月末締め、翌月どこかの金曜日に発送
- ③ お支払い お届けより一週間以内に商品代金と送料(関西700円、関東900円)

記事の訂正とお詫び

通信10号の記事に誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。

6P「祝福の海」の1、3、10行の東城雅之は東条雅之に訂正

3行長門市湯谷は長門市油谷に訂正

6P右段1行情報センターは情報センターに訂正



編集後記

今年3回目を迎えた上関原発を建てさせない3.26山口県民大集会は「上関に原発を建てさせない」「福島への舞をさせてはならない」この一点で豊北とつながり、福島とつながった中味の濃い集会であったように思う。

今号はこの集会をメインにし、参加した人々の思いを反映させ、参加は出来なかったがさまざまなご協力をいただいた方々にも声が届けばとの思いをこめて編集しました。なお今号は4ページ増やし12ページ建てとしました。御投稿いただいた方、御協力ありがとうございました。

編集部